

天変地異

おはようございます。

「天変地異」この意味を知っていますか。「天変地異」とは、天地間に起こる自然の災害や変わった出来事をいいます。

3月11日（金）の午後2時46分ごろ、この天変地異が起きました。宮城県三陸沖で世界観測史上最大級M9.0の地震が発生し、津波や火災などで数万人の死傷者と行方不明者、また、多くの避難所生活を送らざるを得ない人たちがでています。

皆さんもこの大地震を身を持って体験する非常事態となり、大変恐い思いをしました。この地震発生時に、1年生は総合的な学習の時間、2年生は武道室で百人一首大会をしていました。私は、この百人一首大会の読み手をしていたときに大きな揺れを感じ2年生の生徒に校庭への避難を指示しました。また、1年生には校内放送で校庭に避難するよう指示が出ました。避難訓練を確実に実施していた効果もあり、一人のけが人を出さず避難することができました。その後、校庭中央に避難してからもさらなる大きな揺れでとても立ってはいられない状態でした。墨田区の非常放送の流れの中、校舎の軋む音やプールの水が波打ちあふれ出すなど、中にはパニック状態となり、泣き出す女子生徒もいましたが、先生や生徒たちは、手を取り合ったり、抱き合ったりして不安をなくそうとしている姿がありました。二度目の揺れが治まった後、安全を確認して、各先生方の確認の元、集団下校を行いました。保護者の方が学校に迎えにきて下校した生徒もいました。中には、電車通学の人で帰れない人は二寺小の避難場所に泊まった保護者や生徒もいました。

3年生は、卒業遠足でマザー牧場で体験が終わり、買い物をしているときにこの地震にあったそうです。副校長先生をはじめ、先生方の指示で安全な場所に避難し、その後学校へバスで予定通り向かいましたが、市原市の精油所のタンクの爆発事故により、道路封鎖や迂回などでバスの中で一晩過ごすことになってしまいました。バスは歩く程度の速さでしか進まず、2組のバスは朝5時20分ごろ、1組のバスは、ついに学校までの到着をあきらめ、京成津田沼駅から京成曳舟駅まで電車で行くという非常事態をとり、朝10時40分には帰宅することができました。途中、ガソリンスタンドや民家でトイレを借りたり、コンビニで食料を調達したりしましたが、全員ケガもなく帰宅することができました。その間、大きな余震が続く中、1・2年生の先生方、主事さんや事務の方なども3年生の保護者からの電話対応、つながりにくい状況の中でのバスとの連絡にと、朝まで夜を徹して対応してくれました。

現在、新聞やテレビなどで、大きな津波に流れる建物や車、深夜に町中が火の海に包まれている様子、大きな製油タンクが炎上する様子など、福島原発の停止による放射能漏れなど、映画でしか見たことのないような光景が現実のものとして報道されています。この土・日にも福島・新潟・長野・千葉・茨城等を震源とする大きな余震が続いています。

あと4日で卒業式を迎えますが、皆さんの住んでいるこの東京もまだまだ安心できません。アメリカ・ドイツ・韓国・中国等からも緊急支援部隊が来日して対応してくれています。学校にいる時は、いつでも対応できるように先生方をお願いしてありますが、自宅にいるときや出かけているときの対応など、保護者の人とよく話をして安全確保に十分に注意してください。

なお、この後生活指導主任の河野先生から学校内の危険箇所や緊急避難や登下校の注意事項についてお話をしてもらいます。よく聞いてください。